

社会貢献活動

よき企業市民として、皆さまとのコミュニケーションを大切に、地域の環境保全と活性化への貢献に取り組んでまいります。



熊本地震への支援活動

2016年4月に発生した熊本地震への支援物資として、当社が所属している一般社団法人日本インテリアファブリックス協会と日本カーペット工業組合は各社合同で、タイルカーペット約4,800㎡(19,200枚)、2畳3畳用のカーペット約1,500枚を提供いたしました。被災地の1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

地域清掃活動

周辺地域の美化を目的に、各事業所単位で清掃活動に参加いたしました。環境に配慮した技術や製品を扱う企業として、環境への高い意識を持つとともに、地域コミュニティの一員として継続して活動に参加してまいります。



住江織物(株)奈良事業所
工場外周の美化活動
2016年5月 19名参加



帝人テクロス(株)
「ごみゼロ運動いなざわ」
2016年5月 40名参加



STA(米国)
公道ゴミ拾い
2016年4月 15名参加

職業体験・インターンシップ・学校行事への協力

2015年度も近隣の学校からの職業体験・インターンシップを受け入れました。カーペットなどの品質管理の実験やサンプルの作成を通して、当グループが生産している製品について学ぶとともに、働く上で必要な能力や仕事の役割について考える機会を提供いたしました。また、住江織物(株)奈良事業所では地域行事への協賛を、STA(米国)ではチャリティーゴルフへの参加を継続して行っております。



住江織物(株)奈良事業所
安堵小学校 工場見学
2015年10月



住江テクノ(株)滋賀工場
甲賀中学校 職場体験
2015年10月 5日間



丹後テクスタイル(株)
峰山高校 インターンシップ
2016年7月 5日間



STA(米国)
チャリティーゴルフトーナメント
2016年5月 40名参加

ピンクリボン運動の推進

ルノン(株)は、「乳がんで悲しむ人をなくしたい」というNPO法人J. POSHのピンクリボン運動※を応援しております。ピンクリボン基金への寄附に加え、J. POSHのロゴが入った名刺の使用や営業担当者がロゴバッジをつけて外出をすることにより普及啓発をしております。

※ピンクリボン運動…乳がんで亡くなった方のご家族が、「このような悲しい出来事が繰り返されないように」という想いを込めて始め、乳がんに対する正しい理解と早期発見・治療を啓発する活動です。1980年代に米国で始まったこの活動は、現在は世界中に広がっています。



会社概要

- 会社名 住江織物株式会社
Suminoe Textile Co., Ltd.
- 本社所在地 〒542-8504 大阪市中央区南船場三丁目11番20号
- 創業 1883年(明治16年)
- 合資会社創立 1913年(大正2年12月25日)(住江織物合資会社)
- 株式会社設立 1930年(昭和5年12月26日)(住江織物株式会社)
- 資本金 95億5千4百万円 ※2016年5月31日現在
- 従業員数 239名(連結グループ2,786名) ※2016年5月31日現在
- 営業品目 【インテリア事業】カーペット、カーテン、壁紙、各種床材など
【自動車・車両内装事業】自動車・バス・鉄道車両・航空機等の内装材
【機能資材事業】ホットカーペット、消臭関連商材、太陽電池向けシリコンウエハなど

大正時代 ～インテリア織物の揺籃期～

1913(大正2)年 住江織物合資会社を設立。

最大の顧客であった国鉄からのオファー拡大にともない力織機を購入。工場近代化の一步を踏み出しました。

1915(大正4)年 帝国劇場に椅子張地を納入。宝塚大劇場においては現在に至るまで90以上にわたり、文化・芸術の場に彩を添えてきました。



力織機



帝国劇場 花道
(国立国会図書館蔵)



帝国劇場 椅子張地

編集後記

3回目の「CSRレポート」の発行となります。

発行の過程において、米国子会社STAの不適切会計処理という大きな問題が発生いたしました。CSRの大きなテーマであるガバナンス・コンプライアンスについて、今までの取り組みでは不十分ではないかと、見直しを迫られているのだと感じております。再発防止のため、真摯に対応をしていかなければなりません。

一方、「特集② 社員から見た住江織物らしさ」として、過去から引き継いできた良さ、これまで担ってきた社会的役割、また当グループのルーツである手織りの伝統技術をご

紹介しております。私たちは創業以来130余年、またこれから続く未来に向けての歴史の内、たった何十年かを担っているに過ぎません。今後、反省すべき点は改めた上で、過去の良さは継承し、皆様の生活により豊かさをご提供できるよう前進していきたいと思っております。今回のレポートで、その姿勢をお伝えすることができれば幸いです。

最後に、関係者の皆様へは多大なるご迷惑、ご心配をお掛けいたしました。今後の当グループのCSR活動に対し、忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。

事務局：CSR推進室 福田直子



CSRレポート作成メンバーによる、原稿作成会議